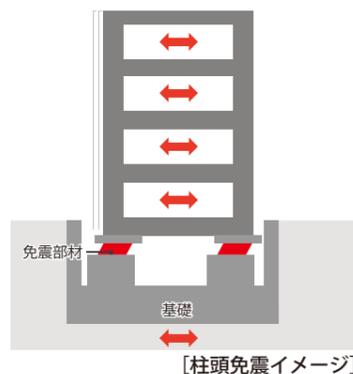


構造計画

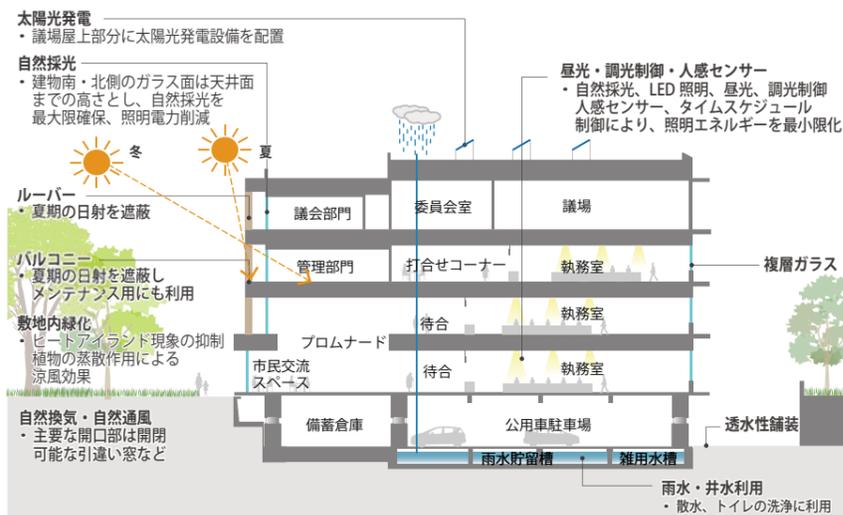
- 大地震発生による構造躯体の損傷や、建物内の什器等の転倒及びガラスの破損等を防止し、市庁舎機能を低下させることなく、業務継続を可能にするため「免震構造」を採用します。免震部材は地下1階柱頭に設置し、免震ピットを駐車場として有効利用する「柱頭免震構造」とします。
- 上部構造は剛性が高く免震構造の効果を発揮しやすい鉄筋コンクリート造を採用しています。プレストレストコンクリート梁により見通しのよい大空間を実現しています。
- 基礎は直接基礎とし、GL-12m以深の堅固な砂礫層に支持します。基礎下端から支持地盤まで続く軟弱な粘土層は柱状地盤改良を施し、建物を確実に支持できる基礎構造とします。



環境に配慮した庁舎

- 自然エネルギーの積極的な利用や省エネ・省資源に配慮した環境配慮型庁舎として、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）Aランク以上の性能を確保します。

受変電設備	受電方式：高圧1回線受電 盤形式：屋内キュービクル型
直流電源設備	蓄電池仕様：長時間MSE 盤形式：屋内キュービクル型
非常用発電設備	発電機仕様：3相3線200V
太陽光発電設備	設備容量 10KW程度
空調設備	執務室等：全熱交換器+GHP 災害対応室：全熱交換器+EHP 議場：置換空調
給水設備	上水（都水）：加圧給水方式 雑用水（井水+雨水）： 地下ピットからの加圧給水方式
排水設備	屋内：汚水、雑排水分流方式 屋外：汚水、雑排水合流方式



工事工程計画

- 新庁舎の建設事業は、右に示すスケジュールを基本に進めます。
- 建設中は現庁舎で業務を継続し、新庁舎完成後に現庁舎を解体、外構整備を行います。
- 2022年4月にグランドオープン予定です。

年月	2019年				2020年				2021年				2022年											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
工事	①新庁舎建設工事（21ヶ月）												②移転（3ヶ月）			③既存庁舎解体工事・外構工事（11ヶ月）								
	現庁舎にて業務運用												新庁舎にて業務運用											
業務	現庁舎にて業務運用												新庁舎にて業務運用											

計画事業費

- 新庁舎建設事業費は、新庁舎建設基本計画における概算事業費を上限として設計作業を進めてきました。しかしながら、オリンピックの開催や度重なる自然災害への対応などによる建築資材高騰等の影響により、計画事業費の見直しを行い増額しました。今後も引き続き市況の動向を注視しながら慎重に事業を進めていきます。

事業費等	事業費		財源	
	項目	金額	項目	金額
事業費等	工事費（※1）	47.5億円程度	国都支出金	5.0億円程度
	委託費（※2）	1.9億円程度	公共施設等整備基金	25.5億円程度
	備品・移転等費用（※3）	4.8億円程度	地方債	22.7億円程度
	合計	54.2億円程度	一般財源	1.0億円程度
			合計	54.2億円程度

※1 工事費には新庁舎建設工事、現庁舎解体工事、外構整備工事、アスベスト除去工事を含む
 ※2 委託費には測量調査、地盤調査、基本設計、実施設計、工事監理等を含む ※3 備品・移転等費用には備品購入費・移転費・土地取得費等を含む

清瀬市役所 新庁舎建設計画 ご案内

Kiyose City Hall Plan Guide

平成31年2月 清瀬市企画部新庁舎建設室発行



新庁舎の基本理念

安全・安心な庁舎づくり

- 地震や台風等による大規模な自然災害に対応するため、免震構造の採用により、ライフラインや情報通信機能の自立性を備え、災害対策拠点機能の強化を図ります。
- 分かりやすい誘導サインや、授乳室、キッズコーナー、保育室の配置、各階へのだれでもトイレの設置など、多様な方々の利用を促すユニバーサルデザインを実現します。
- 個室の相談室や窓口カウンターにブースや仕切りを設け、セキュリティに配慮した窓口と執務室のゾーニングにより、プライバシー保護及び防犯の強化を図ります。

使いやすい効率的な庁舎づくり

- 市民利用の多い窓口を1、2階に集約し、関連性が高い窓口を近接させることで、移動が少なく、手続きをスムーズに行えるように利便性の向上を図ります。
- 直線状に窓口カウンターを配置することで視認性を高め、分かりやすく快適な窓口環境にします。
- 執務空間を無柱とすることで、レイアウト変更や設備更新に柔軟な対応ができる庁舎とします。

誇りと愛着を持てる庁舎づくり

- 1階に明るく開放的な市民交流スペースを配し、2階に市民協働サロン兼ギャラリーと市民協働ルーム、行政資料コーナーを設け、大階段がある吹き抜けでこの空間を結ぶことで一体感を創出し、そこを訪れる人々の市民交流を促進します。
- 敷地西側に既存樹木の「大けやき」を中心とした緑地を整備し、日射抑制用の縦ルーバーに天然木を採用することで緑豊かな周辺環境との調和を重視します。

